

難病・慢性疾患全国フォーラム2012

アピール

日本における難病対策は、1972年の「難病対策要綱」制定以来、初めての大きな転換期を迎えています。このことは、この難病・慢性疾患全国フォーラムに結集した患者・家族団体が大きな成果として歓迎し、関係者のご支援をいただいた国民の皆様から感謝申し上げます。

私たちのねがいは、医療費の負担軽減や治療研究の推進、治療法の開発にとどまらず、就労支援、医療体制の整備、相談体制の拡充、福祉や生活保障制度の充実、学校生活においてみんなと一緒に学び成長していくことを保障することなど、多岐にわたっています。

今後はそれらのねがいが実を結ぶように、さらに改革が積み重ねられ、一層充実し、全国のどこに住んでいても、我が国が到達した医学・医療と社会保障の様々な制度を等しく利用することが可能になるように、当事者団体としての活動を力強く継続発展させるよう一層の努力を重ねなければなりません。

厚生労働省では、いま、難病対策を抜本的に改革し、制度化するための検討がすすめられています。私たちの声が反映された難病新法の日も早い成立を望みます。

また、新しい難病対策の推進を目指す超党派国会議員連盟が設立され、100名を超える議員が参加しています。超党派による国会議員連盟の設立は、多くの患者団体の永年のねがいでもあり、今後、難病対策の充実と発展に寄与されるものと期待しています。

すべての患者・家族が、多くの国民が、病気になったことによって重い苦しみや悩みを味わうことがないように、必要な支援を必要に応じて得られることができる社会の実現を目指して、全国の患者・家族団体と個人や支援者が一層力強く手をつなぐこと、私たちの活動が難病や慢性疾患の患者に限らず、すべての国民の社会福祉の向上に役立つことを願って、一層の連携を強める活動を続けることを、この集会の名において誓います。

多くの国民の皆様のご理解と力強いご支援をお願いいたします。

2012年(平成24年)11月24日
難病・慢性疾患全国フォーラム2012
参加者一同